

○ 本校の概要

・学校規模等…本年度は開校から90年目にあたる。児童数387名(7月1日)、学級数13学級(第3学年…3学級 1,2,4,5,6学年…2学級)、教職員数19名(管理職2名 学級担任13名 専科4名)  
 ・学校の特色…本校の校風は種々やかで、これは、各町会、卒業生、保護者等、古くから本校にかかわりのある人々の温かな支えによるところが大きい。また、教育活動への支援として、スクールサポーターや図書ボランティアなどの常時活動や、夏休みわくわくスクール等の取組が年々充実している。(昨年度はコロナウイルス感染症対策のため)児童は何事にも素直な気持ちで向かうことができる。児童は、学年の壁を越えて交流(たてわり班等)するなど、豊かなかかわり合いが見られる。  
 ・本校の取組…自分の気持ちや思いをしっかりと伝えられる児童の育成に取り組んでいく。今年度も特別活動を重点に研究を進めて、12月9日に研究発表会を行う。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価 人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	保護者アンケートより 「学校は左記に示された各取組内容を実践している。」に対して、肯定的な回答の割合	4: 90%以上	<これまでの取組> ・ALTIによる指導を充実させることで、児童は進んで友達たちとコミュニケーションを図ろうとし、学習を楽しむことができていた。 ・コロナ禍ではあるが、できる範囲で体験活動や外部講師による指導を行うことができた。 ・児童に1人1台のタブレットを授業や家庭学習で活用することができた。 ・全教育活動において、教員が心の教育を意識して指導した。常に人間尊重の精神の育成を心がけて指導に当たっていた。 ・体力テストでは、各学年ごとに課題を見付け指導方法を工夫することで、コロナ禍における運動不足の解消を心がけた。学校全体で長縄の8の字跳び等に取り組むを長した。 <今後の改善策> ・今後も1人1台のタブレットを活用して、個に応じた課題に取り組ませたり、家庭学習に活用したりして児童の意欲高めるとともに、更に有効な活用方法を研鑽していく。	A 6	・常に人間尊重の精神の育成を心掛けて指導に当たっていただけたことが、何より大切なことと思います。 ・タブレットの活用が盛んになると共に、体験活動や対人関係もより一層充実させていただきたいと思っております。 ・成果指標が総体的でそれも保護者アンケートの結果として高く評価はちがうと思う。 ・低学年もパソコンを使いこなしているのを見て、タブレットがしっかりと活用されていると感じました。 ・今年度公開授業で1人1台のタブレットを活用している子供達の姿やオンラインで地方の子供達と繋がりができている、生き生きとした子供達の姿を見ることができた。 ・これからも直接的な対話や関わりを大事にして活用してほしい。 ・1人1台のタブレットの活用は児童にとっても今後の学習にも大きく影響すると思うので、個人差が大きくなるように指導を願います。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	94%	3: 80%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4		4: 70%以上			
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4		2: 70%以上			
体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1: 70%未満						
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	児童のアンケートより 「授業がよくわかる。」に対して肯定的な回答の割合	4: 90%以上	93%	<これまでの取組> ・学習カルテによる具体的な根拠を基にした一人ひとりの課題を踏まえ、学習計画と指導方法の見直しを行った。 ・補習が必要な児童を少人数に絞りじっくりと個別指導を行った。 ・学習効果測定の結果を基に、各教科の主任が中心となり、授業改善推進プランを作成し、全教員がそれに基づいた授業を行った。 <今後の改善策> ・算数チェックシートを活用し、学習内容の理解度を把握し、個別に課題を決めて指導することを徹底させる。	A 6	
	算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3: 80%以上					
	学習補助員等による算数の補習を実施する。	4:対象児童への出席を担任が働きかけた。 3:80%以上の担任が働きかけた。 2:60%以上の担任が働きかけた。 1:60%未満の担任が働きかけた。	4	2: 70%以上					
	授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1: 70%未満					
プラン3 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	保護者アンケートより 「学校は児童の困り感や悩みを誠実に対応している。」に対して肯定的な回答の割合	4: 90%以上	96%	<これまでの取組> ・学校のきまりだけでなく社会のルールを守るための手立てを、大森二中と情報交換しながら、社会の規範意識の向上を図った。 ・2学期の学校公開で全クラス道徳の公開を行い、指導案を作成しに当たり道徳教育推進教師を中心に指導法等研鑽を行った。 ・学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童に担任やSGが個別に面談を行った。(1学期:5年全員) ・生活指導委員会等を活用し、児童やクラスの情報を共有を図った。「いじめは絶対にゆるさない。」という意識を高めるために研究を行った。状況によりいじめ対策委員会を開き、迅速かつ組織的に対応した。 <今後の改善策> ・生活指導委員会で、活発に情報交換できる雰囲気作りを更に進め、全教員が些細なことでも情報を発信できるようにする。更に、状況に応じて素早く組織的に対応できる体制を確立する。	A 6	
	道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3: 80%以上					
	学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2: 70%以上					
	学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:必要な事案に対して協議を実施し、組織的に対応した。	4	1: 70%未満					
プラン4 スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	児童アンケートより 「運動することや、健康を保つことに興味をもっている。」に対して肯定的な回答の割合	4: 90%以上	86%	<これまでの取組> ・「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組を推進するとともに登校時の検温や休み時間ごとの消毒等、感染症対策の徹底に努めた。 ・低学年を中心に食育指導を行い、パランスのよい食生活の大切さを理解させた。 ・春のスポーツ競技大会や秋の表現運動発表会を実施し、運動に対する興味関心を高め、運動する喜びを体感させた。 <今後の改善策> ・今後も中休みの全員外遊びの継続や体育の授業や体育的行事を通して、運動習慣の確立を図る。	A 3	
	給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	3: 80%以上					
	体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	2: 70%以上					
	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1: 70%未満					
プラン5 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくり	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	保護者アンケートより 「学校は、わかる授業づくりに努力している。」に対して肯定的な回答の割合	4: 90%以上	97%	<これまでの取組> ・各学期1回ずつ学校公開を行い、保護者からの授業評価を真摯に受け止め授業改善を図った。 ・教員による模範授業を行い、学級会の進め方や体育の体つくりの運動の実施方法を研習した。 <今後の改善策> ・月に1回ずつ、若手教員対象に主任主幹教諭の校内研修会を設定し、教員の指導力向上を図る。	A 6	
	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3: 80%以上					
	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2: 70%以上					
	校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	1: 70%未満					
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作りまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	保護者アンケートより 「学校は地域・保護者との協力的な情報発信に努めている。」に対して肯定的な回答の割合	4: 90%以上	98%	<これまでの取組> ・地域防災訓練に多くの教職員が参加し、地域の方と協力して防災拠点としての学校の立場を意欲的に、設置の方法を学んだ。 <今後の改善策> ・今後も、学校ホームページに学校の様子を毎日アップし、保護者や地域の方に学校の情報を発信する。	A 6	
	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	3: 80%以上					
	学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	2: 70%以上					
				1: 70%未満					
その他							・地域、街(町会)とのコミュニケーションは、教育面と併せて、準備⇒実行⇒終了作業のプロセスが大変良くなされています。 ・毎日更新されるHPを楽しみにしている保護者も多いことですね。先生方も楽しんで負担なく続けていただければと思います。 ・評価が高すぎる。99%や98%の評価は不自然。評価が適切でないのかも。 ・毎日ホームページが更新され、学校の様子を見ることができるようになりました。写真が多く楽しみです。 ・ホームページを毎日アップの目標が実施されたことに頭が下がります。校長の想いを全職員が受け止め実行するという形は絆の強さ、チームワークを感じました。		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。  
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。